



NO.1290

11月1日

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二一四四五八
F 四三二一四四五七

野党共闘を発展させ

平和と憲法が守られる政治に

「平和と憲法が守られ、命が最優先される新しい政治・社会をつくらう」と、「戦争させない市民の風・北海道」は9月25日、野党各党に要請しました。市民の風代表の川原氏は「しっかりと



た政策を打ち出すことで、風がこつちに吹いてくる。市民と野党は共闘してやっていると、新しい政治を一緒につくるんだというイメージを強く打ち出すことが必要」と力を込めました。

山氏は、国会での野党共闘は相当前進しており、立憲民主党の枝野幸男代表が「政権交代を実現するために連携してきた」と政権を取る意気込みを語っていると指摘。「日本共産党は、市民と野党の共闘の前進のために全力を尽くす。野党共闘を発展させていくためにも、共産党自身の躍進にも力を入れる」と語りました。

市民の風が求める政策提案

- ①平和と憲法が守られ、いのちが最優先される社会
- ②暮らしと健康が守られ、「原発ゼロ」を実現する社会
- ③人々の多様性を活かし、だれ一人取り残されない社会
- ④熟議と情報公開に基づく民主主義社会を構築し、未来への責任をはたす社会

核兵器禁止条約に署名・批准する政府をつくらう！

全国で495自治体が意見書

核兵器禁止条約を批准する国が50ヶ国となりました。しかし、唯一の被爆国である日本はアメリカの核の傘を理由に批准していません。現在、国に批准を求める運動が全国で進み、495自治体（28%）、北海道では赤平市など57議会（32%）となつていきます。

網走市議会では2018年3月議会

にて松浦議員が「禁止条約の日本政府の署名と批准を求める意見書案」を提出し、総務経済委員会にて審議され、委員全員が賛成し採択、3月9日に国に意見書を提出しています。国民の声をさらに大きくして、核兵器のない世界をつくりましょう！



松浦奮戦も



核兵器禁止条約にホンジュラスが50カ国めの批准をし、

核兵器禁止条約の発効が確定しました。2017年7月に国連会議で採択された条約ですが、ついに来年1月22日に発効します。核兵器禁止条約は、核兵器の非人道性を厳しく告発し、その開発、実験、生産、保有から使用と威嚇にいたるまで全面的に禁止。核兵器に「悪の烙印」を押すとともに、完全廃絶までの枠組みと道筋を明記しています。この条約が発効したことで核保有国は条約に違反することになりますから、国際世論を高めて核兵器をなくすための大きな力になります。

この条約ができるまでの広島・長崎の被爆者をはじめ、「核兵器のない世界」を求める世界の圧倒的多数の政府と市民が共同して取り組んできた結果だと思えます。唯一の戦争被爆国である日本政府が条約を批准しないことは、恥ずべきことであり、一日も早い条約の批准をすることを求めるものです。

村や馬ける



熊の被害が全国各地で発生しているが、1才くらい未熟なクマがエサを求めて市街地に出てきているようだ。クマが増加しているのだが、山を通る道にゴミを捨てないなどクマとの関わり方を知らせる必要がある。森の恵みを大切にしたい。

第二次世界大戦の末期に、日本は戦闘機用の燃料が不足し、松の根を蒸し焼きにして松根油を取った。その時に一緒に出た木酢液が水田の側溝に捨てられ、稲が枯れた。しかし、次の年に稲の生育が良かったなどの事例が全国に起こり、戦後に研究が進められ木酢液が虫や病気を減らす農薬となったという。また、堆肥づくりの際に炭の粉を入れると、微生物が増加し有効だ。森の恵みは様々なところにあるのだ。

10月の臨時会で廃棄物処理場の破袋機を増設することが決定した。今、生ごみの全てが堆肥にならず、3割、6割が埋め立てられているとの報道がある。処分の継続のためにも調査しなければならない。

流水

10月はピンクリボン月間です。ピンクリボン運動は1980年代、アメリカの乳がん患者が亡くなった患者さん家族が「このよう

な悲劇を繰り返さないように」との願いを込めて作ったリボンからスタートした乳がん啓蒙運動です。ピンクリボンは乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の重要性を伝えるシンボルマークです。▼私もコロナ禍にしこりを発見し早々に乳がんの手術をして、現在ホルモン剤を服用しています。▼早期発見、治療が欠かせない病気ですが「乳がん」と診断されたら怖いから」と躊躇する声も聞かれます。「乳がんについて知って、怖がらず検診を受けてほしい」と乳腺専門外来の医師は言っています。乳がんは早期発見が重要です。こんにち様々な治療法が生まれ、それほど恐ろしい病気ではありません。▼しかし、ステージが進むと身体的負担も強く、医療費も高額になり精神的負担に加え、経済的負担がのしかかってきます。国は医療費削減の方向であり、高度医療を受けられる人は極わずかです。早期発見で守ることができるとは、すみっこ

